

# 大学1年生からの 社会を見る眼の つくり方

大学初年次教育研究会 著



就活にも役立つ「大人基礎力」を  
身につけよう

大月書店

## はじめに

本書は、まったく新しいタイプの大学1年生用教科書です。学びの技術はもろろんのこと、情報、政治、ジェンダー、労働といった基本的な主題を選び、それぞれについて、統計資料、学生への問い、レポートや討論の課題、検索キーワードなどを明示しました。これを使えば、学生の水準に応じて教員が必要な項目を選び、授業を組み立てることができます。

本書の特徴は次の3点にまとめられます。

- 主に文系学部を対象とし、初年次教育に必須のテーマを1冊に収めた。
- 教師用の手引き・指導書であり、学生用のテキストでもある。
- 着任したばかりの若手教員も、4月からすぐに使える。

なぜこんな教科書を作ったのか、ご説明しましょう。

日本の多くの大学で、1年生向けの初年次教育がカリキュラムに組み込まれ、大学での学び方を学ぶ授業が必修科目とされています。それに合わせて大学1年生用の教科書も多くの種類が刊行されています。その内容は当然のごとく、レポートの書き方、図書館の使い方、発表の仕方など、学びの技術が中心です。ただ実際の授業の進め方は担当教員に任されており、実践報告を見ると、歴史学の教員は歴史の課題を出し、経済学の教員は経済の課題を出して、学生に調べて発表させるというやり方が多いようです。要するに各教員の専門に引きつけた形で授業がなされているのです。それがいけないと言いうのではありません。ただ、1年間の初年次教育がそれだけで終わっていいのでしょうか。

学生が将来一人前の社会人として生きるためには、それにふさわしい基礎的教養が不可欠です。学生の多くは、高校卒業までにとまちな主権者教育を受けないまま有権者となり、まともな性教育も受けずに異性と付き合い、情報社会の危険性を知らずにスマホを使い、労働法の知識もなしにアルバイト

をしています。大人として生きるための基本事項を正面から教えること、これこそ初年次教育の柱とすべきではないでしょうか。

この主張を否定する大学教員はいないと思います。学生たちに主権者としての自覚を持たせたい、ジェンダー教育でセクハラをしない人間を育てたい、ブラックバイトから身を守るため労働法を学んでほしい等々、誰もがこう願っているはずです。しかし教員が1人でこうした課題に取り組もうとすると、憲法・労働法からジェンダー問題まで自分で教材を集めて授業を組み立てねばならず、そのハードルはあまりに高いものがあります(私たち自身が多量な教育を受けていないのですから)。たまたま関連する新聞記事を見つけても、それをコピーして配るだけでは授業になりません。テーマごとの教科書や入門書も各種刊行されていますが、学生に何冊も買わせるのは難しいし、その使い方も結局は教員が暗中模索することになります。

このような理由から、私たちは新しい教科書を作ることにしたのです。もちろん本書に欠けている主題は地球環境問題など数多くありますし、各章の内容も十分に展開しきれない場合があることを自覚しています。物足りない箇所があれば、これを使う教員のみなさんがそれぞれに補っていただきたいと思えます(目次の後の、本書の使い方をご参照ください)。学生たちが卒業する時に、自立・自律した一人前の大人として巣立っていくこと。これがすべての教員の希望です。本書がそのための有益な教材となることを願ってやみません。

なお第7章の執筆に際しては小山俊樹氏(帝京大学史学科、日本近代史)より貴重な助言をいただきました。第2・6章のグラフィック作成では平野淳平氏(同、自然地理学)の手をわずらわせました。お2人のご協力に心より感謝いたします。また、大変な編集作業を見事にこなしてくださった、大月書店編集部の角田三佳さんにも、厚くお礼を申し上げます。

2020年1月

執筆者を代表して 森谷公俊

はじめに iii

本書の使い方——教員のみなさんへ ix

## 第1章 大学での学び方

- 第1節 大学とはどんな世界か (深谷幸治) 2
- 第2節 文章力の基礎作り (深谷幸治) 10
- 第3節 日本語力を高めよう (森谷公俊) 16
- 第4節 自己紹介と発声法 (森谷公俊) 26
- 第5節 図書館を活用しよう (深谷幸治) 33
- 第6節 美術館・博物館で楽しく学ぶ (岡部昌幸) 41

コラム1 研究における不正行為と研究者の倫理 (森谷公俊) 48

## 第2章 社会の中の大学

- 第1節 大学と学問のこれまでとこれから (森谷公俊) 50
- 第2節 教育費から考える大学と社会 (森谷公俊) 59

## 第3章 コンピュータ／ネットワーク・リテラシー

- 第1節 コンピュータは必要不可欠 (池周一郎) 70

## 第6章

# 働くことと労働法

- 第1節 働き方はどうなっているか (村上文) 168
- コラム10 女性活躍推進法と「えるぼし認定」(村上文) 174
- コラム11 仕事と家庭を両立させる法制度 (村上文) 179
- 第2節 あなたを守る労働法  
——アルバイトをする前に (村上文) 182
- 第3節 キャリアデザインをどう作るか (村上文) 191
- 第4節 労働時間はどう変わってきたか (森谷公俊) 197

## 第7章

# 現代史と今日の社会

- 第1節 世界史の中の日本国憲法 (森谷公俊) 206
- コラム12 〈人〉とは誰か (森谷公俊) 217
- 第2節 戦争についてよく知ろう (森谷公俊) 218
- 第3節 自民族中心主義を超えて (ル・ルー・ブレンダン) 229
- コラム13 日本の国民国家を考える (森谷公俊) 242
- 第4節 天皇制について議論しよう (森谷公俊) 244
- コラム14 改元の基礎知識 (森谷公俊) 254

- 第2節 ネットワーク・リテラシーの必要性 (池周一郎) 74
- 第3節 情報社会論・AI革命論を疑う (池周一郎) 83
- コラム2 個人情報流出と信用スコアの危険性 (森谷公俊) 86
- コラム3 ネット利用の注意点 (森谷公俊) 87

## 第4章 ジェンダーから読む社会

- 第1節 ジェンダーから見るあなたと社会(草野いづみ) 90
- 第2節 性と健康を考える (草野いづみ) 98
- 第3節 性暴力をなくすために (草野いづみ) 104
- コラム4 政治家の性差別発言一覧 (森谷公俊) 111

## 第5章 政治と社会の担い手になる

- 第1節 政治はあなたのそばにある (甲斐祥子) 114
- コラム5 自分の1票では何も変わらない? (森谷公俊) 122
- 第2節 憲法と法律はなぜあるのか (甲斐祥子) 124
- コラム6 表現の自由と行政の中立 (森谷公俊) 131
- 第3節 政治参加を考えよう (甲斐祥子) 134
- コラム7 古代アテネ民主政の抽選制 (森谷公俊) 137
- コラム8 反対するのは偏っているか (森谷公俊) 140
- 第4節 税が支える国家と社会 (賀村進一) 145
- 第5節 社会保障はどうあるべきか (賀村進一) 154
- コラム9 その怒りは正当です (森谷公俊) 165